

平成 20 年度 事業報告

10月に念願の観光庁がスタートし観光に対する関心度が高まる中で、世界中を巡るアメリカ発の経済不況がわが国へも大きく影を落とし、下呂温泉の宿泊客数も昨年12月から減少幅が増し、平成20年度の宿泊者数は107万人で4.7%の減少となりました。

7月の東海北陸自動車道開通にあわせ一昨年から続けてきた北陸と、東海環状自動車道を利用した誘客を図るため愛知での誘客宣伝事業を、マスコミやショッピングセンターとタイアップをして行い、岐阜県と中日本高速とが連携した「ドラ旅」キャンペーンにも参加しました。

一方、列車による誘客では、JR東海の「Shupoクーポン」や「飛騨路キャンペーン」とのタイアップ事業、所要各駅でのポスター掲示などを実施しました。

旅フェアでは例年に加え3箇所でのブース展開になり、旅行業界の旅行博や各地での誘客観光展に積極的に参加し、岐阜県の「飛騨美濃じまん運動」で岐阜の宝物第1号に認定された「小坂の滝めぐり」の活用についても連携を図ってまいりました。

下呂商工会の「Gランチ&Gグルメ」全国展開事業と、下呂温泉旅館協同組合との三者で連携をして「お客様の情報窓口1本化」を掲げて、協会のホームページも一新をしました。

また、下呂市観光協会連絡協議会の名古屋での誘致会議と金沢での観光展キャラバンに参加し、各種媒体による観光宣伝やパブリシティなど効果的な情報発信にも努めてまいりました。

インバウンド事業では、下呂市台湾事務所の運営委託を受けて、情報収集や発信、台北旅行博覧会(ITF)に参加し旅行社訪問、また、関係団体が実施する海外の旅行社やマスコミの招致事業や商談会、中部運輸局のビジット中部緊急キャンペーンなどにも参加をしました。

下呂土木事務所や下呂市議会との意見交換会などを通じて、まちづくり、基盤整備、道路標識の整備などをお願いして改善を図っていただき、要望活動にも参加してまいりました。

国の委託事業として、地域のホスピタリティを高め雇用を創出することを目的とした「下呂市地域雇用創造協議会」の事業にも組織の構成員とし研修事業などに参画してまいりました。

交流研修事業として続けてきました車上セミナーでは神奈川と東京を訪ね、地域づくりや最新情報について学び、会員相互の異業種交流、資質の向上を図ることができました。

環境整備では温泉街への花木の植栽手入れを続け、本年度は特に桜のテングス病の大々的な駆除を行い、飛騨川クリーン大作戦では「森は川を育み、川は海へ続いている」として、来年度岐阜県で開催される「全国豊かな海づくり大会」協賛事業に位置づけて実施しました。

「いでゆ夜市」、「キャンドルイルミネーション」などのイベントを継続して実施をするとともに、「下呂温泉まつり」や「花火ミュージカル」等はじめ、関係諸団体の催事や、下呂温泉卓球大会、JRさわやかウォーキングなどのスポーツコンベンションにも協力をしてきました。

こうした観光協会の動きを「観光協会だより」にまとめ、奇数月の第4日曜日に市内全域に新聞折込みをして、協会事業の報告や観光の現状を伝えてきました。

宿泊客は減少する中で昼間の街あるきが増えるなど、旅行形態が変化し転換期を迎えた中で、地道な努力の積み重ねで今年度の事業を実施してまいりました。

皆様の格別のご協力に深く感謝を申し上げます。